

成果の説明書

(氏名) 黒崎龍悟	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><研究></p> <ul style="list-style-type: none">研究内容①：科研費・若手 B「農民グループ・ネットワークをとおしたイノベーション普及に関する実証的研究」(代表) および科研費・基盤 A「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(分担) をもとに、引き続き東アフリカ・タンザニアの農村を対象としながらエネルギーの地産地消を軸にした循環型資源利用のモデルづくりや適正技術の普及に関する研究に取り組んでいる。以下に示す出版物①と③，研究報告①と②が今年度の関連する成果である。研究内容②：前年度から進めていた群馬県の赤城山麓周辺における小規模自家水力発電の歴史に関する調査をまとめた(出版物②)。また、福岡県における小型水力発電を利用した地域活性化事業についてまとめ学会で報告した(研究報告等③)出版物<ul style="list-style-type: none">① 黒崎龍悟(2018)「農業・農村開発における住民組織をめぐる支援の動向—1990年代以降のタンザニアの事例から—」『高崎経済大学論集』61, 81-96.② 黒崎龍悟(2018)「群馬県、赤城山周辺地域における小規模水力発電事業」『産業研究』54(1), 45-59.③ 黒崎龍悟(2018)「適正技術の多重性—戦後日本の改良かまどの事例から」『産業研究』54(2), 82-90.④ 掛谷誠(京都大学名誉教授) 著作集『第2巻 呪医と精霊の世界』・『第3巻 探求と実践の往復』(京都大学学術出版会) 編集委員研究報告等<ul style="list-style-type: none">① 黒崎龍悟・岡村鉄兵(2018)「「壊れたバッテリー」がもたらす悲劇」<フォーラム：個の利益と共の役割—タンザニア農村の事例から>『日本アフリカ学会第55回学術大会』(5月22-23日，北海道大学)② 黒崎龍悟(2018)「プロジェクトを越境する「参加」に学ぶ—タンザニア南部農村での事例から—」<企画セッション：日本の開発援助における研究者と開発コンサルタントの協働とその展望>『国際開発学会第29回全国大会』(11月23-24日，筑波大学)③ 黒崎龍悟(2019)「自然エネルギーの使い道—福岡県京都郡における地域活性化事業と水車」『生態人類学会第24回研究大会』(3月20-21日，鴨川グランドホテル). <p><教育></p> <ul style="list-style-type: none">講義形式の授業においてもコンパクトなワークを取り入れることを実践した。課題を洗い出し、今後、より双方向的になるよう内容を洗練させていくことを目指す。また、フィールドワークで得られた最新の成果を取り入れて、授業内容を更新することに努めた。 <p><社会貢献></p> <ul style="list-style-type: none">本学図書館にて異文化理解のための写真展「アフリカの未来世代」を開催(2018年4月16日(月)～4月27日(金)) 共催・特定NPO法人アフリックアフリカ高崎経済大学地域科学研究所 連携公開講座において講演「現代アフリカ農村における自然エネルギー利用」(2018年6月9日(土))	

2 その他の事項

学内業務では、経済学部入試運営委員および自己点検・評価委員を担当した。

3 次年度以降の計画・抱負

科研費が最終年度となるので、内容のまとめに力を注いでいく。また、国内を対象とした研究では、県内外の自然エネルギー利用についてより広い視点から事例を収集していく。これらの研究もとに、引き続き公開講座等で研究成果の社会還元に努める。